

「事前学習Ⅰ」

講師 室田 信一 先生

- ・人文社会学部 人間社会学科 准教授
- ・ボランティアセンター アドバイザー

2021年6月26日（土）

報告



6月26日（土）13:00～16:30、南大沢キャンパス 本部棟 大会議室にて、都立大独自のボランティア活動であるボランティアプログラムの「事前学習Ⅰ」を実施しました。実施に当たっては、検温やアルコール消毒の徹底、フィジカルディスタンスの確保など、感染症対策をしっかり行った上で、対面で行いました。

本学のボランティアプログラムは、学習と連動した活動を年間を通じて行うもので、「地域ボランティアプログラム」と「スポーツボランティアプログラム」の2つのプログラムを実施しています。参加者の初顔合わせとなる今回は両プログラム合同で実施し、「地域」22名、「スポーツ」19名、合計41名の学生が出席しました。

講師は、ボランティアセンターのアドバイザーでもいらっしゃる、人文社会学部 人間社会学科の室田信一先生にご担当いただきました。

講師の室田 信一 先生



当日の様子

前半は、参加プログラムに関係なく、あらかじめ距離を確保した座席を並べた8つのグループに分かれて、ワークを行いました。初めのうち、学生たちは緊張した様子でしたが、アイスブレイクなどを通して次第に打ち解け、和やかな雰囲気になっていきました。

続いて、ボランティア活動を始めようと思った動機を掘り下げていきました。まず、3～4人の組をつくり、一人が語り手、他の人が聴き手となって、それぞれの動機を聞き合いました。質問などを交えながら自分の動機を他者と共有したり、他者の動機と比べたりすることによって、自分の想いや価値観について改めて考えることができましたようです。

「社会とつながりたい」「社会課題の解決をしたい」「自分の居場所が欲しい」など、小グループで共有されたそれぞれの動機については、共通点・相違点なども含めて全体で共有されました。

後半は、参加プログラムごとのグループに分かれ、各プログラムの「社会性／公共性」を考えるワークを行いました。プログラムのリーダー学生から、各プログラムの「活動テーマ」や「扱う社会課題」、「活動概要」「活動によって期待される効果」についての説明を聞いた後、各自で参加プログラムの社会性について考え、付箋に書き出しました。

プログラムについて説明するリーダー学生



都立大ボランティアプログラムでは、1年目を「参加の段階（第1ステップ）」、2年目を「参画の段階（第2ステップ）」、3年目以上を「創造の段階（第3ステップ）」と位置付けています。プログラムへの継続的な参加を通して、参画度を高め、学生自らがプログラム自体を創っていく仕組みになっています。

その後、グループ内でそれぞれの考えを共有し、模造紙上で内容ごとに分類したり、見出しをつけて見やすくしたりしました。さらに、その「社会性／公共性」に対し、これからそれらの実現に向けて活動することを踏まえた自分の気持ちを書き加えるなどして、プログラムの社会性への考え方や想いを共有しました。

ワークの最後には、ワールドカフェ方式を用いて全体での共有も行いました。説明役の1人を除いて席を移動し、他のグループの考えや成果物を見て回りながら、説明を聞いた感想や自分の考えをそのグループの付箋や模造紙に書き込むという流れで実施したのですが、自分以

外の様々な視点や価値観に触れたことで、自分自身の考えやボランティア活動、社会性に関する学びを深める機会になったと思います。

グループワークの成果物



ボランティア宣言

今回の事前学習Ⅰの最後には、グループごとに椅子を持ち寄り円陣を組んで、“大都市東京をどのような街にしたいか”“その東京の中に自分をどのように位置付けたいか”といった『ボランティア宣言』を発表し合いました。この『ボランティア宣言』は、これからボランティアプログラムを行う上での行動指針となります。文章で書いている人もいれば、イラストで自分の考えを表現している人もいました。

これからボランティアプログラムの活動が本格的に始まっていきます。来年2月に実施を予定している「事後学習」の際には、様々な経験をしたうえで、この『ボランティア宣言』で表現した自分の想いや考えが変化したのかどうかを確かめる予定です。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によって、事前学習はもとより、ボランティア活動自体がほとんどできず辛い1年となりました。その分を取り返すような学生たちの熱い想いや意欲が感じられ、非常に有意義な時間となりました。

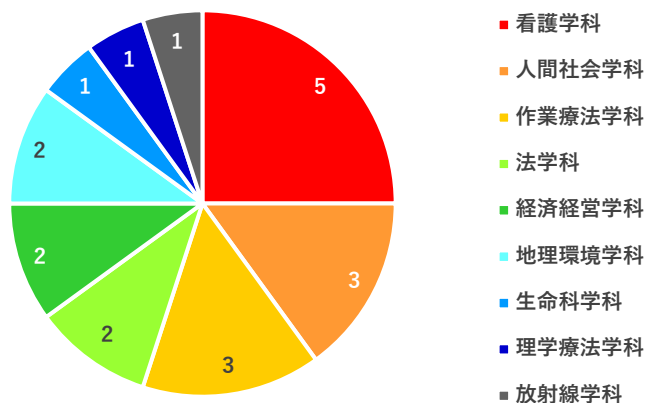
「事前学習Ⅰ」参加者の声（一部）

- みんなの考えを聞き、ボランティアにより意欲的になった
- プログラムについて深く知れた。動機を実際に他者に話すことで、更に深い思いになった
- グループワークの質問を通して自分の考えが言語化できた
- プログラムのことをグループ内、グループ間で考えることができ、より深く理解することができた
- 実際に紙に文字化して書き出したことで、漠然とした気持ちが明らかになった
- 自分の能力UPのためだけでなく、相手のために何かしたいという気持ちも大切だと知った
- スポーツの競技としての一面に興味を感じていたのが、人との繋がりに関することを学び、興味の幅が広がった
- スポーツのボランティアは参加したことがなかったので、どこか漠然としていましたが、スポーツプログラムに参加する人たちと意見交換することで、「人と人とのつながり」「スポーツを広める」など目標がより明確になりました
- 自発性・社会性・無償性 3つのキーを学び、モヤモヤしていたことがすっきりした
- 目標と想いははっきりしてきたように感じました。今後の活動がイメージできて良かったです

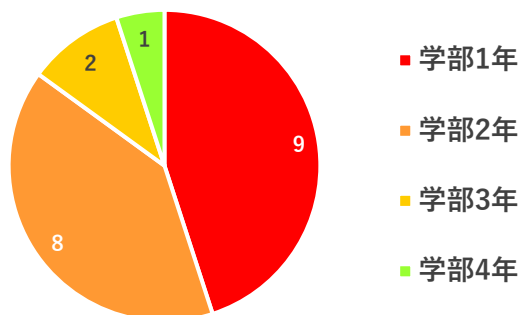
2021年度ボランティアプログラムに関するデータ

■ スポーツボランティアプログラム

申込者数（学科別）

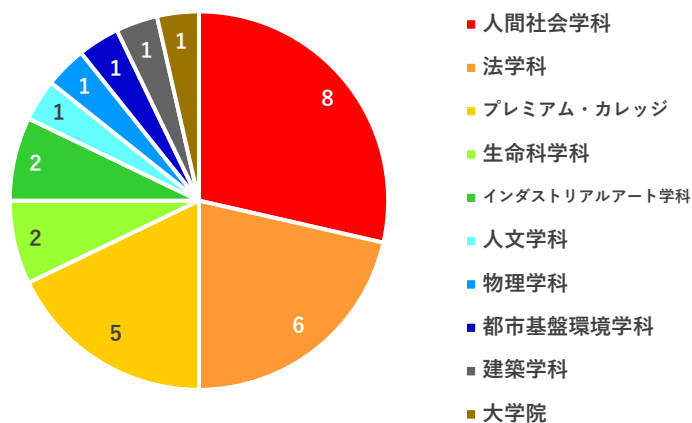


申込者数（学年別）



■ 地域ボランティアプログラム「松木日向緑地プログラム」

申込者数（学科別）



申込者数（学年別）

